

胃捻転症例 5 症例について

○野村美佳，東野，植田，兒玉愛美
(よこはま動物園)

ズーラシアで経験した胃捻転症例を報告する。胃捻転とは、胃拡張胃捻転症候群（GDV）と呼ばれ、胃が拡張し捻じれることで発症する突発的な病気である。

今回、ズーラシアでは胃捻転と思われる病態がドール、リカオン、レッサーパンダ、カンガルーの 4 種 5 症例であり、すべてで死亡している。胃捻転は、捻転度合いにより刻々と病態が変化していく。早急な対応が求められ、多くの場合外科的処置が必要となるが、組織の障害範囲が大きいと予後が悪い傾向にある。今回の症例個体では、1 個体を除き解剖時に胃の組織で障害を認めた。どの症例も比較的早期に検査・治療を行っているがなかなか難しいのが現状である。また、草食動物であるカンガルーは、胃内容や大きさ、消化管の構造から捻転部位の整復、壊死組織の除去が極めて困難である。今後も胃捻転に罹患しても外科的処置は難しいと思われる。